

沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 93

2019年9月27日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

米軍は県民を脅かす訓練をやめろ！

米軍は、原因究明がないまま事故を起こした米軍機の飛行を再開、民間の本部港を海兵隊が通告のみで使用。訓練目的では使用できない場所で訓練をするなど、傍若無人な振る舞いを相変わらずつづけ、日本政府も名護市沖に墜落したオスプレイにかんして、容疑者不詳のまま書類送検、「真相は暗闇の中」で幕を引こうとしています。

本号では、沖縄県民のいのちにかかわる問題について報告します。

CH53 大型輸送ヘリ飛行再開

8月27日に窓の落下事故を起こした大型輸送ヘリが9月7日に飛行を再開しました。この機体はこれまでも普天間第2小学校の校庭に「窓枠」を落下させるなど「老朽化」、「整備不良」による事故が多発している非常に危険な機体です。徹底した原因究明もないまま飛行することは言語道断です。「沖縄の空を飛ぶな」という県民の切実な願いを無視し続けています。9月25日午後4時15分頃には、沖縄都市モノレール「てこだ浦西駅」予定地上空を7機編隊で飛行。伊波洋一参議院議員事務所から写真が地元紙に提供され報道されています。

この飛行再開に対して、日本政府は被害がなかったからと米軍に抗議もしていません。沖国大、名護市沖、高江での墜落など、米軍機は毎年1回は墜落事故を起こしています。安倍政権は見て見ぬふりをするな！

本部港の軍港化反対！

年間数百万人が訪れる美ら海水族館、今帰仁城址、伊江島など沖縄県北部にあつて観光客でにぎわう平和な町であるはずなのに、米海兵隊は9月13日、伊江島でのヘリからの降下訓練のために使用すると、本部港に全長10メートルの救助ボートを強行搬入しようとした。町長をはじめ港で働く全港湾の仲間たちが平和な港を軍港には絶対させないと、ボートをけん引する車両の前に座り込み、10時間も海兵隊、警察機動隊とにらみ合い、ついに通行をストップさせました。この日海兵隊は引き上げましたが、あくまでも軍港化をあきらめたわけではありません。日米地位協定を盾に強行してくるでしょう。「救助用のボート」だとして軍事利用を許そうものなら、軍艦の寄港にもつながると町長や労働者、沖縄平和運動センターも断固反対すると意気込んでいます。

県民の命を脅かす訓練をやめよ！

①読谷村トイ通信基地

9月13日、読谷村のトイ通信施設内で、訓練目的での使用を認めていないにもかかわらず、米海軍MH60ヘリ2機による兵士らが着陸帯で低空した状態でロープを垂らして降下訓練を行いました。地元は猛反対しています。

②米軍嘉手納基地

2018年度沖縄県環境部の統計として、米軍嘉手納基地から発生する1日当たりの平均騒音発生数(70デシベル以上)は、各測定地で約20~45回前後に上っている。特に北谷町砂辺では56.6回で、騒音が住民に深刻な影響を及ぼしています。

③自治体で相次ぎ抗議決議

宜野座村議会は9月19日の定例会議で、原因究明や安全対策が確立されるまで、米軍機の飛行停止を求めることや海兵隊を早期に国外、県外に移転することなどを求めた抗議決議と意見書を全会一致で可決しました。また国頭村議会も9月20日、本会議で米軍ヘリが返還された米軍北部訓練場の安田に着陸したことに対して、抗議決議と意見書を全会一致で可決しています。

④辺野古弾薬庫の沿岸でがけ崩れ

辺野古弾薬庫でがけ崩れがあったことが、地元紙への沖縄ドローンプロジェクトによる写真提供で、わかりました。高さ30メートルの崖が幅15メートルほどに渡って崩れ落ち、地肌がむき出しになり、土砂が浜まで続いています。この弾薬庫では「核」が保管されているのではないかと地元でささやかかれており、常に不安があります。上空を大型輸送ヘリやオスプレイが飛び交っています。この崖崩れに関して、米軍は何ら発表もしていません。弾薬庫は直ちに撤去しろ！